

徳山下松港カーボンニュートラルポート検討会 ～ 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化へ～



徳山下松港カーボンニュートラルポート（以下、CNP）検討会（事務局：中国地方整備局、山口県）が、2月4日（木）、3月17日（水）、26日（金）の計3回開催され、当経連も経済界を代表し参画した。

事務局より4月2日（金）に、検討会でのとりまとめ結果が公表されたが、その概要を報告する。

■CNP検討会の設置

昨年、政府は、2050年にカーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言し、『経済と環境の好循環』を作っていくグリーン成長戦略を策定しました。

これを受け、国土交通省では、脱炭素に配慮した港湾機能の高度化等を通じて、温室効果ガスの排出をゼロにするCNPを形成すべく、国際物流の結節点かつ産業拠点である徳山下松港において、産官学で構成される検討会を設置しました。

■CNP検討会の概要

検討会では、二酸化炭素排出量、水素やアンモニア等の需要ポテンシャルや利活用方策等について検討が行われ、徳山下松港の目指すべき姿や取り組みの方向性等が取りまとめられました。

※公表資料：中国地方整備局
<https://www.cgr.mlit.go.jp/kisha/202104/210402-1top.pdf>



■徳山下松港におけるCNPの方向性

目指すべき姿として、「エネルギーミックス及びCCUS（二酸化炭素回収・貯留）の取組推進によるカーボンニュートラルの実現」と「西日本エリアのエネルギー供給拠点港としての進化」が取りまとめられました。

また、具体的な取り組みの方向性は次のとおりです。

- ◎CO₂削減に向けたバイオマスの輸入拡大
- ◎水素地産地消への取組強化
- ◎港湾物流でのCO₂ゼロ化に向けた取組
- ◎工場内発電所でのアンモニア等の混焼拡大によるCO₂削減
- ◎水素・アンモニア輸送・貯蔵・供給及びCO₂回収・集積・輸送の取組
- ◎CO₂フリー港湾・都市形成に向けたグリーンエネルギー供給への取組
- ◎インセンティブ施策等による水素利用の拡大

（担当：齊藤）

